

就農事例

大西良平氏

調査日 令和6年3月（就農後5年目）

所在地 観音寺市柞田町

経営主 大西 良平

主要事業 露地野菜、水稲・小麦

主要作目
小麦 1,100a
水稲 30a
レタス 290a
ブロッコリー 320a
スイートコーン 130a
ニンニク 60a
タマネギ 20a
ナス 20a

就農タイプ 継承

就農時期 平成30年

労働力
家族 2名（本人、母）
常時雇用 3名
臨時雇用 7名

ヒストリーあらすじ

・大西良平氏は県外の農外企業で働いていたが、「家の農業を手伝ってほしい」という家族からの呼びかけで、香川県に帰郷した。

・地元の先輩と将来の農業について語る中で就農を決意し、親元で1年間の研修を経て平成30年8月に就農し、平成31年3月に認定新規就農者に認定された。

・就農当初は、水稲100aとレタス、ブロッコリー等の露地野菜100aで経営を開始するとともに、新たに借り入れた農地で小麦の栽培に取り組んだ。その後も新たな品目（ナス、ニンニク）を導入し、経営の多角化に取り組んだ。

・農業機械等の設備は親から継承することで初期投資を抑えることができた。その後、規模拡大に応じて補助事業等を活用して、設備投資を行った。

・令和5年8月に認定農業者に認定され、収益性の高い品目を導入して経営改善に取り組んでいる。

・外国人実習生を活用しているが、今後は家族労働と臨時雇用による体制に変更し、栽培品目を見直し、必要労働力の削減を図る。

エッセンス

既存設備の有効利用と規模に見合った設備投資

・既存の設備を活用することで初期投資を抑えた。
・規模拡大に応じた施設整備を補助事業等を活用して計画的に実施した。

農地を集約して効率化

・農地機構等を活用して農地を確保。大半の農地を集約し、作業の効率化を図った。

地域との交流

・JA青壮年部やブロッコリー部会の役員をするなど地域の組織へ積極的に参加し、栽培技術の向上を図った。
・地域の生産者との交流により情報収集し、新たな品目の導入を進めた。



大西良平氏



ニンニクの調整作業



タマネギの栽培状況



小麦の栽培状況



レタスの栽培状況

大西良平氏 ヒストリー < 課題と対応策 >

就農前	就農期 平成30年～	確立期 令和2年～	発展・将来構想 令和5年～
<p style="text-align: center;">他産業に従事、実家の農業を継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実家が専業農家であり、家族から農業を継承してほしいとの要望から香川に帰県した。 <p style="text-align: center;">地元に農業について語ることで先輩がおり、農業のすばらしさを聞き、就農を決意できた。</p>	<p style="text-align: center;">平成30年に就農</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年に認定新規就農者の認定を受ける。 ・香川県農地機構等を活用して新たに農地を借り入れた。 <p style="text-align: center;">親から継承した水稲、露地野菜のほか、借り入れた農地で新たに小麦栽培を開始</p>	<p style="text-align: center;">新たな品目の導入により経営の多角化に挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナス、ニンニクなど新たな品目を導入 <p style="text-align: center;">JAの営農指導員等から技術指導を受け、生産の向上に努めて、安定的に出荷できるようになった。</p>	<p style="text-align: center;">耕畜連携による稲WCS栽培に挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに稲WCS(稲発酵粗飼料)の栽培に取り組み、畜産農家に供給する。 <p style="text-align: center;">近隣の畜産農家から供給された堆肥による土づくりを行い、野菜の品質向上を図る。</p>
<p style="text-align: center;">親元で農業研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退職後、親元で1年間の研修を受け、水稲、露地野菜に関する基礎知識を取得 <p style="text-align: center;">1年間の作業の流れが解るようになり、技術も身につけてきた。また、収益性が高い品目の導入についての考えもまとまってきた。</p>	<p style="text-align: center;">継承した農業機械を利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親から継承した農業機械を活用して、資本装備の初期投資を抑えた。 <p style="text-align: center;">親の経営品目を継承することで、既存の農業機械を活用することができ、初期投資は麦播種機となった。</p>	<p style="text-align: center;">施策を活用した設備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助事業を活用して経費を圧縮し、規模に見合った設備投資の充実を図った。 <p style="text-align: center;">高性能なトラクターやコンバイン等を補助事業で導入することで、作業の効率化を図った。</p>	<p style="text-align: center;">経営品目の変更による必要労働力の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能実習制度を活用して労働力を確保しているが、今後は確保が不安定 <p style="text-align: center;">露地野菜から小麦と稲WCSの栽培にシフトすることで、必要な労働時間の削減に努め、家族労働と臨時雇用による体制に順次変更する。</p>